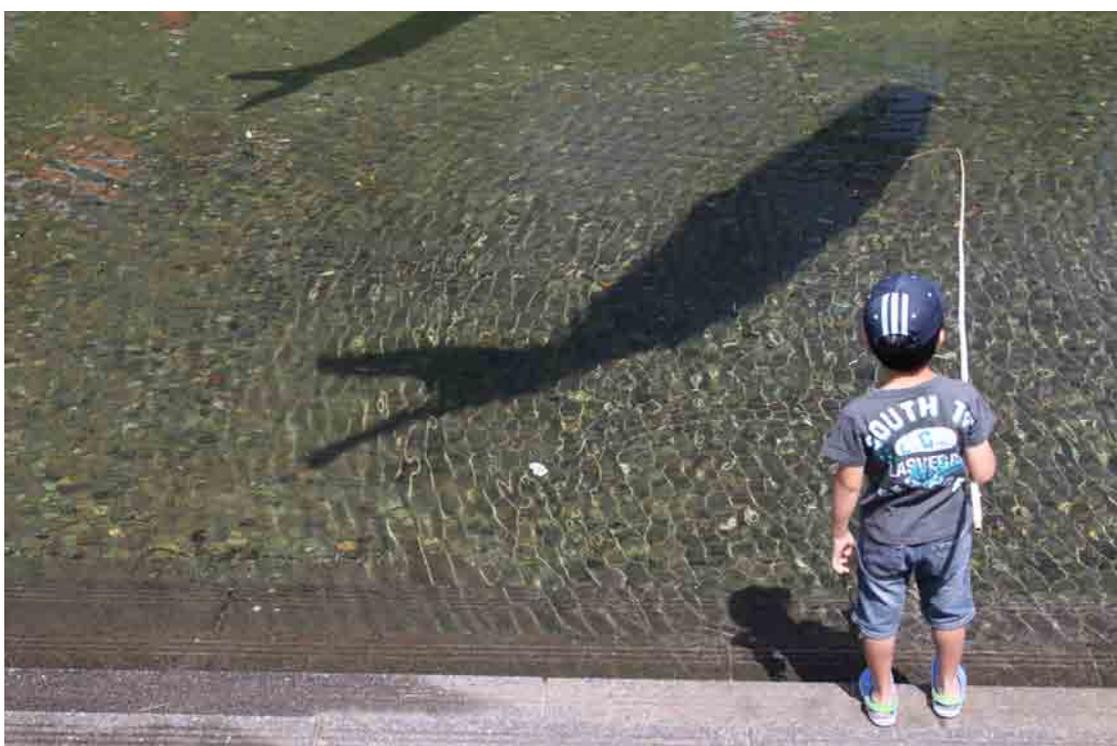


## 第37回水の週間実施報告書



平成25年10月  
水の週間実行委員会



(目 次)

第 37 回「水の週間」の開催にあたり	2
第 37 回「水の週間」行事の概要	3
水の週間中央行事「水の週間シンポジウム」	4
水の週間中央行事「水の展示会」	7
平成 25 年度水資源功績者表彰	12
第 35 回全日本中学生水の作文コンクール	14
第 28 回水とのふれあいフォトコンテスト	17
利根川水系における上下流交流	20
国や地方公共団体等における取り組み状況	21
第 37 回水の週間新聞等報道状況	25
「水の週間」実施経過	26
水の週間実行委員会について	28

※表紙の写真は、第 28 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「五月五日の大物狙い」：松田裕次氏

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の月上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

## 第37回「水の週間」の開催にあたり

毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする1週間を「水の週間」として、全国で水に関する啓発行事を実施することが、昭和52年5月31日に閣議了解として定められました。

今年で第37回目の「水の日」及び「水の週間」を迎えますが、それに先立ち、本日ここに水の週間シンポジウムを開催するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、水の週間中央行事の開催にあたりましては、ご列席の皆様のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、昭和52年頃といえば、高度経済成長の反作用として全国的な水不足、特に高松や松江、福岡などにおける渇水の頻発、河川・湖沼・閉鎖性海域の汚濁と汚染の進行、都市水害の激化など、深刻な水問題を抱えた時代でした。それから約40年の間に、ハード・ソフトに渡る様々な対策が講じられた結果、当時のような危機的な状態からは脱しております。しかし、水問題は社会の変化、あるいは気候・気象の変化に応じて姿を変えて現れます。

昨年の水事情を振り返ってみますと、全国的に降水量が平年を上回ったところが多く、特に梅雨前線や台風などにより、西日本を中心として、たびたび大雨に見舞われました。とりわけ、昨年7月11日から14日に発生した九州北部豪雨による記録破りの大雨は、その地域に住む皆様に甚大な被害をもたらすこととなりました。一昨年の紀伊半島豪雨、また、ここ最近の山口・島根の豪雨もそうですけれども、毎年のようにどこかで豪雨の観測記録が塗りかえられています。これは一過性の現象ではなく、地球温暖化の影響、つまり豪雨の規模と頻度が増すという予測の表れだと見て間違いのないと思います。

その一方で、渇水も頻発しております。昨年の一級河川における渇水は、5月末の豊川水系の渇水に始まり、全国15水系22河川で発生しました。本年につきましても、5月末から7月上旬にかけて、中部地方や四国地方、中国地方を中心に渇水が生じています。特に、利根川水系におきましては、昨年の9月に続き、今年も今月24日から再び取水制限が実施されているという事態となっております。全国的には10年に1回、首都圏では5年に1回の渇水に耐え得る水供給体制は整いつつありますが、今後、温暖化の進行に伴い、渇水の発生頻度も高まると予測されています。

一方、より身近な問題として、高度経済成長時代以来、急速に整備された利水・治水施設の老朽化と維持更新の問題があります。既に耐用年数を過ぎた水道管や下水道管、農業用の用排水路が多い中で、今後、老朽化施設の割合の急激な増加が見込まれています。また、現在の基準で必要とされている耐震性を有しない施設も多数存在しています。

今年の水の週間のテーマ「安全・安心な水のために」という目標を達成するには、地球温暖化の影響を念頭に置きながら、水資源関連施設の維持更新と機能の強化が、計画的に行われることが不可欠です。

こうした状況の中、第37回水の週間は、全国で開催される諸々の行事を通じて、水資源の有限性や水資源開発と水資源関連施設の重要性、さらには世界の水問題や水インフラの国際的な展開、その中での日本の役割などについて、国民の皆様に関心を持っていただく機会にしていきたいと考えております。

最後となりましたが、水の週間行事に対する皆様の今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。



水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

平成25年7月30日

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

## 第 37 回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	<p>1. 水の週間シンポジウム</p> <p>日時：平成25年7月30日（火） 14：00～17：00</p> <p>場所：発明会館ホール</p> <p>内容：①主催者挨拶</p> <p style="padding-left: 2em;">②第35回全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞（披露）</p> <p style="padding-left: 2em;">③基調講演</p> <p style="padding-left: 2em;">④講演</p> <p style="padding-left: 2em;">⑤その他</p> <p>2. 水の展示会</p> <p>日時：平成25年8月12日（月）～14日（水） 10：00～17：00</p> <p>場所：東京国際フォーラム（ガラス棟G510会議室）</p> <p>内容：「水について学ぼう！」をテーマに、小学生の親子を対象として、水にまつわる様々なワークショップやパネル展示を実施。</p>	<p>主催：国土交通省</p> <p style="padding-left: 2em;">東京都</p> <p style="padding-left: 2em;">実行委員会（注）</p> <p>後援：文部科学省</p> <p style="padding-left: 2em;">厚生労働省</p> <p style="padding-left: 2em;">農林水産省</p> <p style="padding-left: 2em;">経済産業省</p> <p style="padding-left: 2em;">環境省</p> <p>（独）水資源機構</p> <p style="padding-left: 2em;">公益財団法人</p> <p style="padding-left: 4em;">日本科学技術振興財団</p> <p style="padding-left: 2em;">日本放送協会</p> <p style="padding-left: 2em;">一般社団法人</p> <p style="padding-left: 4em;">日本新聞協会</p>
水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与	主催：国土交通省
第35回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。	<p>主催：国土交通省、都道府県</p> <p>後援：文部科学省</p> <p style="padding-left: 2em;">全日本中学校長会</p> <p>（独）水資源機構、実行委員会</p>
第28回水とのふれあいフォトコンテスト	「水辺の憩い、水のある風景」、「くらしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマとしてフォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。	<p>主催：実行委員会</p> <p>後援：国土交通省、東京都</p> <p>（独）水資源機構</p>
利根川水系上下流交流会	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催。「利根川源流讃歌」による上下流交流。6月29日（土）	<p>主催：「利根川源流賛歌」発表実行委員会</p> <p>賛助：（社）関東建設弘済会</p> <p>後援：国土交通省ほか</p>
	上下流交流の一環として、文京区野菜塾の講義を受講した卒業生達による、「水と野菜にふれあう一日」と称する利根導水施設の見学会を開催。8月4日（日）	主催：菜菜ポケット
	上下流交流の一環として東京都民を主たる対象に「渡良瀬川上流を訪ねる」と称する草木ダム・足尾銅山・渡良瀬遊水地の見学会を開催。8月11日（日）	主催：市民防災まちづくり塾 実行委員会
	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催。「草木湖まつり」での上下流交流。8月15日（木）	<p>主催：群馬県みどり市ほか</p> <p>協力：東京都墨田区</p> <p style="padding-left: 2em;">東京都水道局、実行委員会</p>
	上下流交流の一環として、「みなかみダムツアー」と称する藤原ダム・矢木沢ダム・奈良俣ダムの見学会を開催。9月14日（土）	<p>主催：Dam Japan</p> <p>協力：（独）水資源機構ほか</p>
水の週間一斉打ち水大作戦	参加者に涼しさ（効果）を体感してもらうことで、水の有効利用、水について考える機会となるよう、雨水や風呂の残り湯などを使って打ち水を実施。	<p>主催：地方自治体等</p> <p style="padding-left: 2em;">趣旨に賛同した団体、個人</p>
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに（独）水資源機構等において実施	<p>主催：都道府県</p> <p>（独）水資源機構ほか</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施</li> <li>・ポスターの配布・掲示</li> </ul>	

（注）「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

※今年度実施する予定としていた「水の週間記念第33回隅田川レガッタ」と「水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省」については、諸事情により中止となりました。

## 水の週間中央行事「水の週間シンポジウム」



平成25年7月30日（火）、東京都港区の発明会館ホールにおいて、約300名の方にご来場いただき、「水の週間シンポジウム」を開催しました。

「水の週間シンポジウム」では、主催者である佐藤直良国土交通省国土交通事務次官、藤井寛行東京都技監及び虫明功臣水の週間実行委員会会長によるご挨拶の後、「第35回全日本中学生水の作文コンクール」最優秀賞の披露として、受賞者の鈴木綾さんに受賞作品「命の源」を朗読いただきました。その後、「安全・安心な水のために」をテーマに、シンポジウムを行いました。

会場では「平成25年度水資源功績者」、「第35回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第28回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等の展示も行いました。

### ◆主催者挨拶



佐藤直良国土交通省国土交通事務次官



藤井寛行東京都技監



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第35回全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞（披露）



第35回全日本中学生水の作文コンクール  
最優秀賞 鈴木 綾さん  
(岩手県滝沢村立姥屋敷中学校2年)

◆シンポジウム

【基調講演】 「水道の水を飲める国であるために」 中央大学理工学部教授 山田 正氏



中央大学理工学部教授 山田 正氏

【講演】

- ①「多摩川源流体験教室（水源地における取組）」多摩川源流研究所所長 中村 文明氏
- ②「市民がしらべる身近な水環境の全国一斉調査」全国水環境マップ実行委員会事務局長 佐山 公一氏
- ③「Bangladeshにおける持続可能な安全な飲み水確保の取組」 (株) 天水研究所代表取締役 村瀬 誠氏
- ④「アジアにおける総合水資源管理の取組」 (独) 水資源機構国際グループ 川崎 忠成氏



多摩川源流研究所所長 中村 文明氏



全国水環境マップ実行委員会事務局長  
佐山 公一氏



(株)天水研究所代表取締役 村瀬 誠氏



(独)水資源機構国際グループ 川崎 忠成氏

【その他】 『水のめぐみ』とふれあう水の里の旅コンテスト2013」最優秀賞受賞企画の紹介



しらやま振興会 森 和恵さん

#### ◆入賞作品等の展示



平成25年度水資源功績者



第35回全日本中学生水の作文コンクール



第28回水とのふれあいフォトコンテスト

## 水の週間中央行事「水の展示会」

平成 25 年 8 月 12 日（月）から 14 日（水）までの 3 日間、東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）が開催する「丸の内キッズジャンボリー2013」に参加し、一部スペースを借りて「水の展示会」を開催しました。

「水について学ぼう！」をテーマに、小学生の親子を対象として、今年も多くの組織、団体により、水にまつわるパネル展示やブース出展が行われました。また、今年も、ワークショップ形式の催しを盛り込み、子供たちに水の大切さをより深く知っていただく機会としました。なお、開催期間中には、1,000 名を超える方々にご来場いただきました。

〈丸の内キッズジャンボリーとは〉

2007 年に東京国際フォーラムの開館 10 周年記念事業としてスタート。子供たちへの未来への夢を育む参加・体験型イベントは、丸の内の夏の風物詩として定着。参加した企業、団体、行政機関、NPO 法人などは 102 にのぼる。2013 年は延べ約 13 万人が参加。

### ◆展示会テーマ 「～水について学ぼう！～」

#### 【主催者展示】

「なるほど！だから「安心」東京水」

【東京都水道局】

#### 【一般展示】

「暮らしを支えるダム」

【国土交通省 関東地方整備局】

「アフリカの水汲み」

【独立行政法人 国際協力機構】

「ダムなんでも相談室」

【一般社団法人 ダム工学会】

「田んぼに水がとどくまで」

【公益社団法人農業農村工学会・全国水土里ネット】

「水のふるさと 森林」

【一般社団法人 日本治山治水協会】

「途上国の人々の暮らしを支える安全・安心な水」

【日本水フォーラム】

「さりげなく節水・水を賢く使う社会へ」

【巧水（たくみ）スタイル推進チーム】

#### 【ワークショップ】

「みずについて」

【国土交通省 水管理・国土保全局】

「水道キャラバン特別編 東京の水道を学ぼう！」

【東京都水道局】

「水はどこからくるの？」

【水の週間実行委員会】

「水のふるさと森林」

【一般社団法人 日本治山治水協会】

「お米を育てる水」

【公益社団法人 農業農村工学会】

## 「主催者展示」

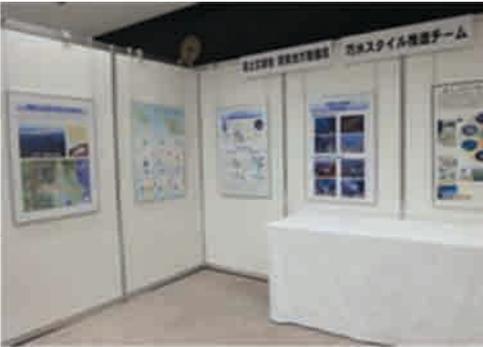


【東京都水道局】

「なるほど！だから「安心」東京水」

水道水の安全性及び安全確保の取組、また、くみ置き・節水など非常時に備えた対応について、パネルや模型を用いて紹介。

## 「一般展示」



【国土交通省 関東地方整備局】

「暮らしを支えるダム」

利根川上流域のダムの紹介や役割についてパネルを展示。また、水資源の安全・安心に関わる取組などを紹介。



【独立行政法人 国際協力機構】

「アフリカの水汲み」

クイズを通じてアフリカと日本で 1日に使う水の量の違いやアフリカの水汲みの大変さなどを紹介。





【一般社団法人 ダム工学会】

「ダムなんでも相談室」

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。



【公益社団法人 農業農村工学会

・全国水土里ネット】

「田んぼに水がとどくまで」

「田んぼに水がとどくまで」の農業水利施設及び施設の管理、地域の関わりについて、パネル展示、水槽（田んぼの生き物）の展示などを通じて紹介。



【一般社団法人 日本治山治水協会】  
「水のふるさと森林」

水を育む森林について、その働き等をパネルで紹介。

また、全国各地で販売されている森林（もり）の水（ペットボトル）の展示と試飲（3種類）を実施。



【日本水フォーラム】  
「途上国の人々の暮らしを支える  
安全・安心な水」

途上国の人々に安全な水を供給することに関する、もしくは雨水の活用等、草の根的な活動をパネルで紹介。



【巧水(たくみ)スタイル推進チーム】  
「さりげなく節水・水を賢く使う社会へ」

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということをパネルで紹介。

## 「ワークショップ」

<p>【団体名】</p> <p>「タイトル」</p>	<p>ワークショップ概要</p>
<p>【国土交通省 水管理・国土保全局】</p> <p>「みずについて」</p>	<p>普段何気なく使っている水について、クイズを交えたワークショップを開催。</p>
<p>【東京都水道局】</p> <p>「水道キャラバン特別編 東京の水道を学ぼう！」</p>	<p>東京都の管理する様々な水道施設を、映像を通じて見学。安全でおいしい水道水ができるまでの取組などを学習。</p>
<p>【水の週間実行委員会】</p> <p>「水はどこからくるの？」</p>	<p>水がどこからくるのか考えながら、水を大切に使うために、みんなができることなどについて学習。</p>
<p>公益社団法人 農業農村工学会】</p> <p>「お米を育てる水」</p>	<p>お米を育てる水に関する楽しいクイズに回答しながら、田んぼでの水の利用について学習。（受講証を授与）</p>
<p>【一般社団法人 日本治山治水協会】</p> <p>「水のふるさと森林」</p>	<p>森林に降った雨はどこに流れていくのか、森林が育んだ水はなぜおいしいのかなどについて学習。（3種類の代表的な森林（もり）の水を試飲）</p>



農業農村工学会ワークショップの状況



東京都水道局ワークショップの状況

## 平成 25 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域対策、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として表彰されました。表彰式が平成 25 年 8 月 1 日（木）に国土交通省特別会議室において開かれ、太田昭宏国土交通大臣から表彰状が授与されました。

### [個人] 1 名

受賞者	功績概要
おおや あきお 大矢 明夫 (神奈川県)	宮ヶ瀬ダム建設にあたり、水没地域における集団移転に対する不安解消などダム建設計画の支障排除に尽力し、建設後も関係機関と連携を図り、宮ヶ瀬湖の環境保全、「宮ヶ瀬湖憲章」の制定や「宮ヶ瀬湖水源地域ビジョン」の策定、宮ヶ瀬ダムを活用した水源地域活性化などに積極的に取り組み、多大な実績を挙げられた。

### [団体] 10 団体

受賞者	功績概要
せんだいしりつおおくらしょうがっこう 仙台市立大倉小学校 (宮城県)	昭和 38 年より 50 年間にわたって、仙台市及び塩竈市の水源となっている大倉ダムの清掃美化活動を継続し水資源の保全に大きく貢献されている。
ふくしましりつもにわちゅうがっこう 福島市立茂庭中学校 (福島県)	福島県北部の水源である摺上川の水質調査活動を、少人数で全校を挙げて、震災後も休止することなく 20 年間継続して実施しており、調査結果を地域に発信するなど、環境保全に貢献されている。
なついがわりゅういきのかい 夏井川流域の会 (福島県)	上下流で各々活動していた団体が、行政界を超えた夏井川流域全体を活動の場とする「夏井川流域の会」を結成し、健全な水循環の継承を進めるため、流域活動計画策定や流域連携活動の中心的役割を果たされている。
かわにしとちかいりょうく 川西土地改良区 (新潟県)	小学生を主対象に、森林の水資源涵養の役割、農業用水の大切さをジオラマ等で説明し、故郷の土地や森林を守り、水源を守ることの大切さを啓発する活動を行われている。

<p>きょうとかせんび かだんたいれんごうかい 京都河川美化団体連合会 (京都府)</p>	<p>昭和 47 年から生命を育む清らかな自然を守り、健康で美しく潤いのある環境づくりを進めるため、桂川、鴨川、白川を活動フィールドに国民の最も重要な水資源である河川美化活動を行われている。</p>
<p>ながおかきょうしさとやまさいせい 長岡京市里山再生 しみんふおーらむ 市民フォーラム (京都府)</p>	<p>長岡京市の西域 4 割を占める西山において、長年にわたり水源涵養に資する森林保全活動や、次世代を担う子ども達への環境教育に取り組まれている。</p>
<p>かんきょうししみんかいぎ たかつき環境市民会議 みずかんきょうほぜんぐるーぶ 水環境保全グループ (大阪府)</p>	<p>「もったいない」を合言葉に、大切な資源である雨水の有効活用を目的として、平成 19 年に雨水タンク「たかつき天水くん」を開発し、雨水タンクの普及活動を始め、これまでの 6 年間で計 390 台を設置し雨水の有効利用に寄与されている。</p>
<p>まつもとちく 松本地区せせらぎ すいろかんりかい 水路管理会 (兵庫県)</p>	<p>下水処理水を水源とする松本地区のせせらぎ水路において、水路内の藻の除去、水路周辺の花壇や道路の清掃活動を行っている。また、せせらぎ水路の活用や維持管理上の課題解決について、地域のまとめ役と活動するなど地域の活性化に貢献されている。</p>
<p>こうえきざいだんほうじんよしのがわ 公益財団法人吉野川 きかわげんりゅうものがたり 紀の川源流物語 (奈良県)</p>	<p>紀の川（吉野川）源流に位置する川上村内のビジターセンター「森と水の源流館」を拠点とし、流域交流型の事業展開により、流域平野部の住民向けに、源流域の役割と河川環境に関わる啓発活動を実施している。設立から 10 年間での利用・交流人数は、約 164,000 人にのぼっている。</p>
<p>かせがわだむたいさくきょうぎかい 嘉瀬川ダム対策協議会 (佐賀県)</p>	<p>嘉瀬川ダム建設に伴う水没者の生活再建や関係者等協議会との調整に尽力され、組織を挙げてダム建設の円滑な進捗に貢献するとともに、ダム周辺の植樹を通じた水源涵養、美化活動等の環境保全、及び下流受益地域との交流にも積極的に取り組み、地域振興・上下流交流など流域連携による取り組みの中心的な団体として活動されている。</p>



## 第 35 回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を開催しました。第 35 回を迎えた今年は、総数 18,191 編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞 1 編、優秀賞 5 編及び入選 27 編（P16 参照）が選ばれました。表彰式が平成 25 年 8 月 1 日（木）に国土交通省特別会議室において開かれ、最優秀賞受賞者に太田昭宏国土交通大臣から、優秀賞受賞者に関係団体代表者から賞状が授与されました。

### (1) 主催等

主 催：国土交通省、都道府県

後 援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、(独)水資源機構

### (2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400 字詰原稿用紙 4 枚以内

③募集期間：平成 25 年 6 月 14 日（金）まで

### (3) 応募状況

応募学校数：368 校

応募総数：18,191 編

### (4) 中央審査会審査委員 ※ 50 音順、敬称略

秋本 佳則 （国土交通省大臣官房審議官）

井上 久夫 （(独)水資源機構理事）

須田 淳一 （全日本中学校長会編集部部長）

須磨 佳津江（キャスター）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

松明 淳 （公益社団法人日本水道協会調査部長）



# 最優秀賞 国土交通大臣賞

## 命の源

私が住んでいるのは滝沢村の姥屋敷地区という所です。酪農を営んでいる家も多く、私の家もその中の一つです。自然に囲まれていて、目の前にある雄大な岩手山がいつも私達を見守ってくれています。

私の家の水は井戸水です。自然の恵みを受け、透き通り、いつもおいしく飲んでいきます。水量が豊富で、水が枯れてしまうとか、水が少なくて使えないという心配をそれまでしたことはありませんでした。

そんな私達を襲った、忘れもしない三月十一日の東日本大震災。停電が起こり、全てのライフラインが止まってしまいました。私の家は酪農をしており、牛も六十頭余りいます。私達人間にとっても水は大切ですが、動物にとつても同じで、我が家では、その六十頭の牛に飲ませる水の心配もしなければならなくなりました。牛は一日に約百リットルもの水を飲むと言われています。その水が全く出なくなってしまったのです。このような非常事態のために発電機を準備している家もありますが、私の家にはありませんでした。牛は水を飲まないといふ牛乳が少ししか出てきません。また、私の家では搾乳した牛乳を近くの会社におろしているので、どうしても毎日、定期的に搾乳しなければなりません。事態は深刻でした。

停電直後、父がまず行った事は牛のえさの確保でした。この緊急事態で品切れも予想されたからです。父と私はすぐさま車に乗り、大渋滞の中をえさの会社に向いました。そしてなんとか確保することができました。

次に搾乳です。乳しぼりをしないと乳房に炎症が起きてしまいます。停電で搾乳機も止まってしまったので、父と祖父母は余震が続く真っ暗な牛舎の中で乳しぼりをしたそうです。一晩中バケツ（ミルクを一時貯めるためのタンク）を使い、乳しぼりをしたと言っていました。真っ暗な牛舎の中で六十頭分の搾乳をし、家に帰ってきた父はとてもとても疲

岩手県 滝沢村立姥屋敷中学校二年 鈴木 綾

れた顔をしていました。そんな父に、母はコップ一杯の水を差し出しました。その水を、一気にゴクゴクと飲みほした父は「生き返った。」と言いました。一杯の水の威力です。

翌日は泊まっていたいとこ達と一緒に、牛の水やりのために奮闘しました。人間の水は市販の水でまかなうことができたが、ただでさえ水不足が問題になっていた時です。六十頭もの牛にペットボトルの水を与えるのは無理です。幸い私の家には、牛用に井戸水から自然落下で流れてきた水を貯める所がありました。そこから手作業で牛舎に運ぶことにしました。五百リットルのタンクに水を入れると人の力では持ち上げきれない程の重さでした。大人達は軽トラに積んで牛舎に運びました。三歳のいとこも小さいバケツで何回も運んでくれました。

牛舎にバケツで水を運んだ時の牛の表情が忘れられません。大きな瞳で私をじっと見つめる目が水を待ちわびているようでした。バケツからウォーターカップに水を入れると、むさぼるように飲みほしてしまいました。この作業を何度か繰り返すと、牛もとても満足そうな顔をしてくるのでした。服はびしょぬれになり、とても疲れる作業でしたが、うれしそうな顔をしている牛を見て、私も幸せな気持ちになりました。

普段は当たり前のように電気や水を使っています。しかし今回の震災で、人間にも動物にも「水」は本当に大切なものだと感じるようになりました。水がないと人間も動物も生きることができません。まさに「命の源」です。疲れきった父を潤してくれた一杯の水。たったコップ一杯でも人間は立ち上がって次に向うことができると知りました。これからは、水が使えるありがたさを心に留めて、限りある資源を大切に使いたいです。





## 第28回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会  
後援 国土交通省、東京都、(独)水資源機構  
協賛 富士フイルムイメージングシステムズ(株)

テーマ ・水辺の憩い、水のある風景  
・くらしの中で毎日使う水  
・作物や草木を育て、エネルギーを生む水  
・ダムや水路など水をつくる施設  
・歴史とともにある街の中の水 等

募集期間 平成25年4月15日(月)～6月14日(金)

応募状況 総計 2,760点

作品展示 平成25年7月30日(火)  
発明会館(地下2階ホール)  
平成25年8月1日(木)～8月6日(火)  
国土交通省 合同庁舎3号館(1階展示スペース)  
平成25年8月19日(月)～10月31日(木)  
奈良俣ダム防災資料館「ヒルトップならまた」

審査員(敬称略)

中谷 吉隆	(写真家)	秋本 佳則	(国土交通省大臣官房審議官)
内田 勲	(写真家)	飯尾 豊	(東京都都市整備局長)
片岡 友理	(著述家)	大野 雄一	(水の週間実行委員会運営委員長)

※ この「水とのふれあいフォトコンテスト」は、「河川整備基金」の助成を受けて実施しております。

「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力(閣議了解)に基づき昭和63年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方募金委員会等が資金を拠出(寄付)して造成されているものです。

この基金の運用益(利息)から、安全で良好な“河川環境”を目指してよりよい“川づくり”に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。

河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。

【第28回水とのふれあいフォトコンテスト受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

まつだ ゆうじ (宮崎県)

画題：「五月五日の大物狙い」



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

かしま ひでお (埼玉県)

画題：「清掃の日」



○ 水の週間実行委員会会長賞

ひの いさむ (山形県)

画題：「ひととき」



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

おおぼ なおき  
大場 直喜 (宮城県)

画題：「子供の日」



〔特別賞〕 1名

○ 富士フィルム

イメージングシステムズ賞

よしだ しんすけ  
吉田 信介 (滋賀県)

画題：「夏は水遊び！！」



〔特選〕 5名

「繋ぐ」	増 永 康 一	(長崎県)
「お茶当番」	松 井 文 郎	(三重県)
「通路」	菊 地 和 夫	(山梨県)
「お清め」	北 崎 英 信	(栃木県)
「愛馬」	蒲 澤 隆 治	(岩手県)

〔入選〕 10名

「ふるさとの祭り」	伊 藤 憲 男	「筏下り」	鈴 木 文 代
「染め洗い」	山 本 璋 子	「やったー」	石 川 賢 一
「蒼白の朝」	水 野 敬 雄	「土を落とす」	田 中 和 夫
「ちょっと休憩」	杉 浦 裕 正	「勢い水」	生 田 守
「氷だよ」	飯 田 能 之	「田植えの少女」	下 斗 米 光 円

# 利根川水系における上下流交流

## ○「利根川源流讃歌」における上下流交流

6月29日（土）、群馬県のみなかみ町カルチャーセンターにおいて、「利根川源流讃歌」第13回発表会が開催されました。

「利根川源流讃歌」は、利根川の源流域で生きる人々や自然をたたえる12曲で構成されており、流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催されています。



## ○「水と野菜にふれあう一日(利根導水施設見学会)」における上下流交流

8月4日（日）、文京区野菜塾の講義を受講した卒業生達により、「水と野菜にふれあう一日」と称して利根導水施設の見学会が開催されました。

見学者の方々には、利根導水施設をご覧いただき、都民が普段口にする野菜や果物を生産するための水がどこからやってくるのかについて学んでいただきました。

また、見学者の方々には、利根導水施設近隣の農家で野菜の収穫を体験していただきましたが、これらの成果については、8月29日（木）、30日（金）に文京シビックセンターにて、パネル展示を通じて報告しました。



## ○「渡良瀬川上流を訪ねる（草木ダム・足尾銅山・渡良瀬遊水地見学会）」における上下流交流

8月11日（日）、東京都民を主たる対象として、「渡良瀬川上流を訪ねる」と称して草木ダム・足尾銅山・渡良瀬遊水地の見学会が開催されました。

見学者の方々には、渡良瀬川の上流域（足尾銅山・草木ダム）や中流域（渡良瀬遊水地）における治水対策の大切さや都民の生活との関わりについて学んでいただきました。

## ○「草木湖まつり」における上下流交流

8月15日（木）、群馬県のみどり市東町運動公園において、「第36回草木湖まつり」が開催されました。

首都圏の水がめ「草木ダム」竣工を契機に始まったこの祭りは、ダム建設に伴い移転した旧東村の方々に、年に一度は故郷を訪れ、楽しい一日を過ごしていただきたいという想いと、利根川水系の水源地域の方々と下流域で水を使用する人々との相互理解・相互交流を図り、上下流交流を促進しようという目的で、毎年8月15日に開催されています。



## ○「みなかみダムツアー（藤原ダム・矢木沢ダム・奈良俣ダム見学会）」における上下流交流

9月14日（土）、上下流交流の一環として、「みなかみダムツアー」と称して藤原ダム・矢木沢ダム・奈良俣ダムの見学会が開催されました。普段目にするのできないダム内部の様子を見学いただくことを通じて、見学者の方々にダムが下流域で果たす役割等について学んでいただきました。

## 国や地方公共団体等における取り組み状況

国土交通省をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

### ① ポスターの掲示

水資源の有限性、水の貴重さについて関心を高め、理解を深めるために、ポスター約 18,000 枚を作成し、関係省、都道府県、市町村、中学校等に配布、掲示しました。

### ② 国土交通省内での展示

平成 25 年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第 35 回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第 28 回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を国土交通省 1 階正面玄関横のスペースに展示し、職員及び来省者に水の大切さを PR しました。(p. 22 参照)

### ③ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、水の週間中央行事である「水の展示会」、「水の週間シンポジウム」のほか、昨年度に引き続き、「子ども霞ヶ関見学デー」にて、「水について考えてみよう！」をテーマに、展示を実施しました (p. 22 参照)。

地方公共団体等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、水の展示会、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰等の各種活動が実施され、新聞等により報道されました (p. 23 参照)。

## 国土交通省内での展示

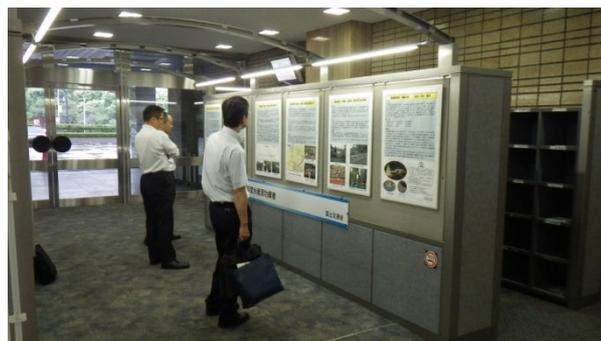
日時 平成 25 年 8 月 1 日（木）～6 日（火）

場所 合同庁舎 3 号館 1 階正面玄関展示スペース（東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3）

内容 平成25 年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第35 回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第28 回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を展示し、職員及び来省者に水の大切さをPR。



全日本中学生水の作文コンクール優秀作品の展示



水資源功績者表彰受賞者の功績概要展示

## 子ども霞ヶ関見学デー

～水について考えてみよう！～

日時 平成 25 年 8 月 7 日（水）～8 日（木）

場所 合同庁舎 3 号館 10 階共用会議室（東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3）

主催 国土交通省水資源部水資源政策課（巧水（たくみ）スタイル推進チーム協力）

内容 水の重要性、貴重さなどの理解を深めるパネルの展示、パンフレット及び第28回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品集等の配布。水を大切に使う方法を分かりやすく体験できる「巧水（たくみ）スタイルヒント！ボード」を展示。



パネル展示を見学する子どもたち



巧水スタイルヒント！ボードで遊びながら  
節水について学ぶ子どもたち

## ※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011 年 5 月に発足。）

## 地方公共団体における取り組み例

### 【富山県】置県 130 年記念 水の王国とやまシンポジウム

日時 平成 25 年 8 月 8 日（木） 13：30～16：30

場所 サンシップとやま 福祉ホール

主催 富山県

人数 260 人

内容 置県 130 年及び水源地域保全条例の制定を機として、豊かで清らかな水に恵まれ「水の王国」と呼ばれるふるさとへの理解を広く県民に深めてもらうことを目的として開催。「富山県中学生水の作文コンクール」の表彰式や東京大学の沖大幹教授による基調講演のほか、「ふるさとの水を守り、育む」をテーマとしてパネルディスカッションを実施。



シンポジウムの様子



パネルディスカッション

### 【熊本県】平成 25 年度くまもと水の週間記念式典

日時 平成 25 年 7 月 28 日（日） 13：00～16：00

場所 熊本県庁本館地下大会議室

主催 熊本県〔共催：（公財）熊本市水道サービス公社、協賛：アサヒビール（株）〕

人数 約 250 人

内容 地下水の恵みあふれる『水の国くまもと』となるために私たちが何をすべきか、参加者と共に考えるための式典。全日本中学生水の作文コンクールの熊本県表彰、優秀者による朗読をはじめ、熊本の水に関する啓発映像「水はみんなの命」上映会、くまもと水探検隊に任命されている熊本県住みます芸人「もっこすファイヤー」による記念講演を実施。エントランスコーナーでは作文コンクール優秀作品や環境団体による啓発パネルの展示のほか、熊本の水と世界の水との飲み比べイベントを開催。

「水の国くまもと」 HP：<http://mizukuni.pref.kumamoto.jp/>



全日本中学生水の作文コンクール  
熊本県表彰受賞者



エントランスコーナー（水の飲み比べ）

### 第37回「水の週間」都道府県等行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭アンケート アンケート	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	4	8	14	7	17	47	6	6	14	16	37	13
北海道	○	☆		☆			◎					○	
青森県	○						◎					○	○
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○						○						
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆		
福島県	○		○			☆	◎		○	☆	☆	○	
茨城県	○			◎		○	◎					○	
栃木県	○						◎	○	○			○	○
群馬県	○		○	○		○	◎			○	○		
埼玉県	○						◎				○	◎	○
千葉県	○					○	◎				○	○	○
東京都	○		○			○	◎			○	○	○	○
神奈川県	○						◎			○	○	○	
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○		○				◎			○		○	
石川県	○						◎						
福井県	○			○		○	○			○	◎	☆	
山梨県	○						○						
長野県	○	◎				○	○						○
岐阜県	○						◎						
静岡県	○		○	☆			◎					○	◎
愛知県	○			☆		◎	◎				◎	○	
三重県	○			☆			◎					○	
滋賀県	○						◎			○		○	
京都府	○					○	◎				○	○	
大阪府	○			☆	☆	☆	◎	☆		☆	☆	◎	☆
兵庫県	○						◎					○	
奈良県	○			◎		◎	◎					○	
和歌山県	○						◎	○	○			○	
鳥取県	○			◎			○					○	
島根県	○						◎			○		○	
岡山県	○						◎					○	
広島県	○						◎					○	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○	◎			○		◎		○	○		○	○
香川県	○			◎		○	◎			○	☆	○	
愛媛県	○		☆	☆		◎	◎	○	○	☆	◎	◎	☆
高知県	○			☆	◎		◎				○	○	
福岡県	○			☆	◎		◎	○			○	○	○
佐賀県	○					○	◎					○	
長崎県	○				☆	☆	◎				☆	◎	
熊本県	○		○		○	○	◎	○		○		○	○
大分県	○						◎		○				○
宮崎県	○						○					○	○
鹿児島県	○		☆		☆		◎					○	
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。☆は、市町村等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第36回「水の週間」(平成24年度)都道府県等行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	47	8	20	6	16	47	5	9	11	15	35	13
北海道	○	○		☆			◎					○	
青森県	○	○					◎					○	○
岩手県	○	○					◎					○	
宮城県	○	○					○						
秋田県	○	○					○						
山形県	○	○					○						
福島県	○	○	○	◎		☆	◎		○			○	
茨城県	○	○		◎			◎	○				○	
栃木県	○	○					◎		○			○	○
群馬県	○	○	○	○			◎						
埼玉県	○	○					◎				○	○	○
千葉県	○	○				○	◎				○	○	○
東京都	○	○	○			○	◎		○	○	○	○	
神奈川県	○	◎	○			◎	◎	○		○	○	○	
新潟県	○	○					◎			○		○	
富山県	○	○					◎			○		○	
石川県	○	○					◎						
福井県	○	○		○		○	○			○	☆		
山梨県	○	○					○						
長野県	○	○				○	○						○
岐阜県	○	○		○			◎		○			○	
静岡県	○	○	○	☆			◎					○	◎
愛知県	○	○		☆		◎	◎				◎	○	
三重県	○	○		☆			◎					○	
滋賀県	○	○					◎					○	
京都府	○	○				○	◎				○		
大阪府	○	○		☆	☆		◎				☆	◎	☆
兵庫県	○	○					◎						
奈良県	○	○		◎		◎	◎	○			○	○	
和歌山県	○	○					◎		○		○	○	
鳥取県	○	○		◎			○						
島根県	○	○					◎			○		○	
岡山県	○	○		○			○						
広島県	○	○		☆			◎					○	
山口県	○	○					◎					○	
徳島県	○	○			◎	☆	◎					◎	○
香川県	○	○		◎		○	◎			○	☆	○	
愛媛県	○	○	◎	◎		◎	◎		○	◎		◎	☆
高知県	○	○		☆	◎		◎				○	○	
福岡県	○	○		☆	◎		◎				○	○	○
佐賀県	○	○		☆		○	◎			○	○	○	
長崎県	○	○			☆	☆	◎	☆	☆	◎	☆	◎	
熊本県	○	○	○		○	○	◎	○	○	○		○	○
大分県	○	○		☆			◎		○			◎	○
宮崎県	○	○					◎					○	○
鹿児島県	○	○	☆				◎					○	
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したのも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の○は、「日本の水」(制作:国土交通省)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したのも配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

### 第37回水の週間新聞等報道状況

月 日	新聞等名	地域	見 出 し
6月15日	根室新聞	根室	全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール入賞者 <small>等の中から別海中央中の植原さん</small>
6月15日	北海道新聞	空知	中学・水の作文 管内の4人受賞
6月19日	プレス空知	空知	中学生水の作文 大野、佐藤さん優秀賞 <small>いざねも美瑛中、水の大切さを訴える</small>
7月2日	北海道新聞	空知	水の作文2人最高賞
7月31日	プレス空知	空知	おもしろ実験や水の飲み比べ 8月3日であえーる
8月2日	北海道新聞	空知	水に触れ合う催しも
8月7日	プレス空知	空知	身近な水に関心 ふれあい水ひろば 体験コーナーやパネル展
7月20日	岩手日日新聞	地方	水の作文佳作に入賞 一関一高附属中西丸さんへ賞状
7月25日	盛岡タイムス	地方	鈴木さん(姥屋敷中2年)県内初の快挙
8月3日	岩手日報	地方	鈴木さん(滝沢・姥屋敷中)全国最優秀 水の作文コンクール
8月29日	盛岡経済新聞	地方	滝沢村中学生が「水の作文コンクール」で最優秀賞受賞 一村特別表彰も
8月30日	滝沢FAN <small>(岩手めんこいテレビ)</small>	地方	水の作文特別表彰
7月26日	山形新聞	地方	“打ち雪ひんやり”
6月15日	福島民報新聞	地方	県中学生水の作文 3点、全国出品へ
6月15日	福島民友新聞	地方	安齋さん(岩代)ら優秀賞 県中学水の作文コンクール
7月18日	福島民友新聞	地方	水資源功績表彰 茂庭中 夏井川流域の会 本県の2団体受賞 <small>全日本中学生水の作文に本県2人入選 安齋さん(岩代)田々さん(小川)直尾さん</small>
7月18日	福島民報新聞	地方	茂庭中(福島)と夏井川流域の会(いわき)小野)国交省の水資源功績者に <small>中学生水の作文 安齋さん(岩代)ら入選</small>
8月3日	福島民友新聞	地方	受賞者の功績たたえる 中学生水の作文コンクール
8月3日	福島民報新聞	地方	安齋さん(岩代)ら表彰 中学生水の作文県審査
8月29日	福島民友新聞	地方	摺上川の水質調査で功績表彰
7月31日	茨城新聞	地方	全日本中学生「水の作文」 県最優秀市川さん
8月2日	常陽新聞	地方	最優秀賞に市川和人さん 「水の作文コンクール」県表彰式
8月3日	栃木放送	地方	水の日・水の週間について
8月18日	とちぎテレビ	地方	水の作文コンクール県表彰式
8月24日	上毛新聞	地方	水源の大切さ体感 親子でダムを見学
8月1日	日刊建設工業新聞	全国	8月1日は「水の日」、8月1日～7日は「水の週間」安全・安心な水のために
8月5日	日本水道新聞	全国	水の日、水の週間 安全・安心な水のために
8月26日	水道産業新聞	全国	親子で水の大切さ学ぶ 東京都水道局などが出展 水の展示会
4月11日	神奈川新聞	地方	作文コンクール作品募集
8月1日	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	福井新聞	地方	8/1(木)～7(水)は水の週間
8月7日	中日新聞	地方	参道に打ち水 善光寺
8月14日	静岡新聞	地方	松本君、森田さん知事賞 水の週間記念作文コンクール
7月10日	中日新聞	地方	冷ませ地球～名城大生、打ち水で涼
7月19日	中日新聞	地方	中学生水の作文 8人が県表彰受賞
7月20日	中日新聞	地方	浴衣で打ち水 街に涼感

7月30日	中日新聞	地方	水の作文コンクール 県庁で入賞者表彰
7月31日	京都新聞	地方	中学生 水の作文コンクール
5月3日	京都新聞	地方	「まずくない」「臭くない」水道水 カフェでいかが
6月27日	毎日新聞	地方	京都市上下水道局 来月から「京(みやこ)の水カフェ」オープン
6月28日	建設経済新聞	地方	水道水のおいしさと品質PR 7月からキャンペーン
7月11日	水道産業新聞	地方	水道水PRで大作戦を展開
8月3日	リビング京都	地方	使っていますか？水道水 京都市の水道水、味は？
8月4日	京都新聞	地方	水道水の氷おいしいね 京都市上下水道局PR「カフェ」好評
8月8日	水道産業新聞	地方	京の水カフェがオープン 京都市上下水道局 水道キャンペーンの一環で
8月10日	京都新聞	地方	京の水宣言 1万人突破 上下水道局キャンペーン4項目で意思表示
8月18日	読売新聞	地方	水道水でかき水カフェ ドリンクも5種 おいしさ中京でPR
8月30日	毎日新聞	地方	水道水PR活動＝京都市上下水道局
9月5日	日本水道新聞	地方	京都市上下水道局 市内に水カフェ出展
8月2日	京都新聞社	地方	打ち水 夏の猛暑和らげ 「南区などで「大作戦」澄都くんも参加」
7月17日	毎日新聞	地方	すいた水循環フェア
7月19日	読売新聞	地方	水テーマ豊能の美感じて 町職員14人写真展
8月1日	日本水道新聞	全国	図書館とコラボ 水写真展を開催 豊能町上下水道部
7月26日	奈良新聞	地方	川上村 吉野川紀の川源流物語 水資源功績者団体に選出 交流型事業が評価
7月31日	朝日新聞	地方	森と水の源流館が国交大臣賞 水源の大切さ伝える
8月1日	読売新聞	地方	川上の公益法人 水資源功績者に
8月1日	奈良新聞	地方	水の日特集
8月1日	日本経済新聞	全国	広告 水の日、水の週間特集
7月29日	水道産業新聞	全国	安全・安心な水のために
8月1日	日本経済新聞	全国	水の日・水の週間特集
7月28日	徳島新聞	地方	涼呼び込む打ち水 徳島駅前
8月1日	徳島新聞	地方	全国水の作文コンクール 川田さん(那賀川中1年)2席
7月31日	毎日新聞	全国	「命の水」大切に。第37回「水の週間」8月1～7日、8月1日は「水の日」
8月13日	四国新聞	地方	第35回全日本中学生水の作文コンクール大浦さん(宇多津中2年)全国入選
7月24日	愛媛新聞	地方	雨水利用促進へタンク14種展示
8月8日	愛媛新聞	地方	水の大切さわかった(松山 小学生ら漏水調査体験)
8月10日	愛媛新聞	地方	ゲームや講演で水の大切さ学ぶ(松山・親子教室)
8月23日	愛媛新聞	地方	水の大切さ親子実験
7月21日	島原新聞	地方	雪野さん(二中)最優秀賞 水の作文コン 全国でも入選
7月25日	島原新聞	地方	第35回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査 最優秀賞
7月26日	島原新聞	地方	第36回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査 入選
8月6日	長崎新聞	地方	石木ダム促進訴えパレード
8月7日	毎日新聞	地方	石木ダム建設促進パレード
8月18日	読売新聞	地方	長崎市で水フェスタ
8月18日	毎日新聞	地方	長崎市で水フェスタ
7月28日	テレビ熊本	地方	くまもと水の週間記念式典開催(TKUニュース)

7月30日	熊本日日新聞	地方	県庁で記念式典
8月18日	南日本新聞	地方	水道水に関心持って 霧島市 おいしく安全とPR
8月2日	宮古毎日新聞	地方	源河、上里さん優秀賞
8月8日	沖縄タイムス	地方	水の作文5人表彰

第37回水の週間新聞等報道状況

月日	新聞等名	地域	見出し
4月11日	神奈川新聞	地方	作文コンクール作品募集
5月3日	京都新聞	地方	「まずくない」「臭くない」水道水 カフェでいかが
6月15日	根室新聞	地方	全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール入賞者 管内から別海中央中の福原さん
6月15日	北海道新聞	地方	中学・水の作文 管内の4人受賞
6月15日	福島民報新聞	地方	県中学生水の作文 3点、全国出品へ
6月15日	福島民友新聞	地方	安齋さん(岩代)ら優秀賞 県中学生水の作文コンクール
6月19日	プレス空知	地方	中学生水の作文 大野、佐藤さん優秀賞 いずれも美唄中 水の大切さを訴える
6月27日	毎日新聞	地方	京都市上下水道局 来月から「京(みやこ)の水カフェ」オープン
6月28日	建設経済新聞	地方	水道水のおいしさと品質PR 7月からキャンペーン
7月2日	北海道新聞	地方	水の作文2人最高賞
7月4日	建設工業新聞	全国	水の日・週間に各種行事「安全・安心」がテーマ
7月10日	中日新聞	地方	冷ませ地球～名城大生、打ち水で涼
7月11日	水道産業新聞	地方	水道水PRで大作戦を展開
7月17日	毎日新聞	地方	すいた水循環フェア
7月18日	福島民友新聞	地方	水資源功績表彰 茂庭中 夏井川流域の会 本県の2団体受賞 全日本中学生水の作文に本県3人入選 安齋さん(岩代)田久さん(小川)真尾さん(東北)
7月18日	福島民報新聞	地方	茂庭中(福島)と夏井川流域の会(いわき 小野)国交省の水資源功績者に 中学生水の作文 安齋さん(岩代)ら入選
7月19日	中日新聞	地方	中学生水の作文 8人が県表彰受賞
7月19日	読売新聞	地方	水テーマ豊能の美感じて 町職員14人写真展
7月20日	岩手日日新聞	地方	水の作文佳作に入賞 一関一高附属中西丸さんへ賞状
7月20日	中日新聞	地方	浴衣で打ち水 街に涼感
7月21日	島原新聞	地方	雪野さん(二中)最優秀賞 水の作文コン 全国でも入選
7月24日	愛媛新聞	地方	雨水利用促進へタンク14種展示
7月25日	盛岡タイムス	地方	鈴木さん(姥屋敷中2年)県内初の快挙
7月25日	島原新聞	地方	第35回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査 最優秀賞
7月26日	山形新聞	地方	「打ち雪ひんやり、
7月26日	奈良新聞	地方	川上村 吉野川紀の川源流物語 水資源功績者団体に選出 交流型事業が評価
7月26日	島原新聞	地方	第35回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査 入選
7月28日	徳島新聞	地方	涼呼び込む打ち水 徳島駅前
7月28日	テレビ熊本	地方	くまもと水の週間記念式典開催(TKUニュース)
7月29日	水道産業新聞	全国	安全・安心な水のために
7月30日	中日新聞	地方	水の作文コンクール 県庁で入賞者表彰
7月30日	熊本日日新聞	地方	県庁で記念式典
7月31日	毎日新聞	全国	「命の水」大切に。第37回「水の週間」8月1～7日、8月1日は「水の日」
7月31日	京都新聞	地方	中学生 水の作文コンクール
7月31日	プレス空知	地方	おもしろ実験や水の飲み比べ 8月3日であえーる
7月31日	茨城新聞	地方	全日本中学生「水の作文」県最優秀市川さん
7月31日	朝日新聞	地方	森と水の源流館が国交大臣賞 水源の大切さ伝える
8月1日	日刊建設工業新聞	全国	8月1日は「水の日」、8月1日～7日は「水の週間」安全・安心な水のために
8月1日	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	日本経済新聞	全国	水の日・水の週間特集
8月1日	福井新聞	地方	8/1(木)～7(水)は水の週間
8月1日	日本水道新聞	全国	図書館とコラボ 水写真展を開催 豊能町上下水道部
8月1日	読売新聞	地方	川上の公益法人 水資源功績者に
8月1日	奈良新聞	地方	水の日特集
8月1日	徳島新聞	地方	全国水の作文コンクール 川田さん(那賀川中1年)2席
8月1日	上毛新聞	地方	「水の日」に寄せて 節水意識高めよう
8月2日	北海道新聞	地方	水に触れ合う催しも
8月2日	常陽新聞	地方	最優秀賞に市川和人さん「水の作文コンクール」県表彰式
8月2日	京都新聞社	地方	打ち水 夏の猛暑和らげ 「南区などで「大作戦」澁都くんも参加」
8月2日	宮古毎日新聞	地方	源河、上里さん優秀賞
8月3日	岩手日報	地方	鈴木さん(滝沢・姥屋敷中)全国最優秀 水の作文コンクール
8月3日	福島民友新聞	地方	受賞者の功績たたえる 中学生水の作文コンクール
8月3日	福島民報新聞	地方	安齋さん(岩代)ら表彰 中学生水の作文県審査
8月3日	栃木放送	地方	水の日・水の週間について
8月3日	リビング京都	地方	使っていますか？水道水 京都市の水道水、味は？
8月4日	京都新聞	地方	水道水の氷おいしいね 京都市上下水道局PR「カフェ」好評
8月5日	日本水道新聞	全国	水の日、水の週間 安全・安心な水のために
8月5日	高知新聞	地方	水を浪費してはいませんか 7日までは「水の週間」
8月6日	長崎新聞	地方	石木ダム促進訴えパレード
8月7日	プレス空知	地方	身近な水に関心 ふれあい水ひろば 体験コーナーやパネル展
8月7日	中日新聞	地方	参道に打ち水 善光寺
8月7日	毎日新聞	地方	石木ダム建設促進パレード
8月8日	水道産業新聞	地方	京の水カフェがオープン 京都市上下水道局 水道キャンペーンの一環で
8月8日	愛媛新聞	地方	水の大切さわかった(松山)小学生ら漏水調査体験
8月8日	沖縄タイムス	地方	水の作文5人表彰
8月10日	京都新聞	地方	京の水宣言 1万人突破 上下水道局キャンペーン4項目で意思表示
8月10日	愛媛新聞	地方	ゲームや講演で水の大切さ学ぶ(松山・親子教室)
8月13日	四国新聞	地方	第35回全日本中学生水の作文コンクール大浦さん(宇多津中2年)全国入選
8月14日	静岡新聞	地方	松本君、森田さん知事賞 水の週間記念作文コンクール
8月18日	とちぎテレビ	地方	水の作文コンクール県表彰式
8月18日	読売新聞	地方	水道水でかき氷カフェ ドリンクも5種 おいしさ中京でPR
8月18日	読売新聞	地方	長崎市で水フェスタ
8月18日	毎日新聞	地方	長崎市で水フェスタ
8月18日	南日本新聞	地方	水道水に関心持って 霧島市 おいしく安全とPR
8月23日	愛媛新聞	地方	水の大切さ親子実験
8月24日	上毛新聞	地方	水源の大切さ体感 親子でダムを見学
8月26日	水道産業新聞	全国	親子で水の大切さ学ぶ 東京都水道局などが出展 水の展示会
8月29日	盛岡経済新聞	地方	滝沢村中学生が「水の作文コンクール」で最優秀賞受賞一村特別表彰も
8月29日	福島民友新聞	地方	摺上川の水質調査で功績表彰
8月30日	滝沢FAN (岩手めんこいテレビ)	地方	水の作文特別表彰
8月30日	毎日新聞	地方	水道水PR活動＝京都市上下水道局
9月5日	日刊建設工業新聞	全国	第35回全日本中学生水の作文コンクール入賞作品
9月5日	日本水道新聞	地方	京都市上下水道局 市内に水カフェ出展

# 「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6. 26)  
(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第 1 回水資源に関するシンポジウム （10. 25）	・水の週間閣議了解（5. 31） ・国連水会議（3. 14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だな	○ウォーターフェア’ 78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （5. 8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’ 79 （船の科学館） ○第 1 回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’ 80 東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しまし いのちの水・水とのあい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’ 81 東京 （科学技術館） ○第 1 回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’ 82 東京 （科学技術館） ○第 2 回水資源に関するシンポジウム （8. 3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’ 83 東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’ 84 東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’ 85 東京 （科学技術館） ○ウォーターフェア KOBE （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’ 86 東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第 1 回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’ 87 東京 （科学技術館） ○第 3 回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （8. 4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォータープ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’ 88 東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’ 89 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’ 90 東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水
平成 3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’ 91 東京 （東京都庁）	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア'92 東京 (東京都庁) ○第4回水資源に関するシンポジウム (10.24)	・環境と開発に関する国連会議
平成5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないから ね	○ウォーターフェア'93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定(3.22)
平成6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア'94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア'95 東京 (墨田区役所)	
平成8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20年。	○ウォーターフェア'96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア'97 東京 (科学技術館) ○第5回水資源に関するシンポジウム (8.4～5)	
平成10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア'98 東京 (科学技術館)	
平成11 (23)		「当り前」ではありません！	○ウォーターフェア'99 東京 (科学技術館) ・水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画(ウォータープラン21)策定 ・小淵内閣総理大臣記念式典臨席、展示会視察
平成12 (24)		水の力	○ウォーターフェア2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足(1.6) ・全国的な渇水
平成14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'02 東京 (新宿パークタワー) ○第6回水資源に関するシンポジウム (8.2～3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア'06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17年末に全国で大雪、降水量首都圏は は平年並み
平成19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア'07 東京 (科学技術館) ○第7回水資源に関するシンポジウム (8.3～4)	・春から6月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア'08 東京 ○水を考えるつどい(科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア'09 東京 ○水を考えるつどい(科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア'10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成23年7月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循 環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成24年7月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム(発明会館)	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

※ 全日本中学生水の作文コンクール、隅田川レガッタ、水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

## 水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

### 水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和 53 年 5 月 8 日設立総会)

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるどころとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げる必要がある。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

## 水の週間実行委員会の組織

会長 虫明功臣（日本河川協会会長）

平成25年8月1日現在

団 体 名	実 行 委 員		運 営 委 員	
全国水土里ネット	専務理事	中條康朗	所 長	原川忠典
造水促進センター	理事長	山本和夫	常務理事	秋谷鷹二
日本治山治水協会	会 長	山口俊一	専務理事	山田壽夫
日本河川協会	会 長	虫明功臣	常務理事	住吉豊明
日本工業用水協会	会 長	中野秀秋	総務部長	芳田丈夫
日本水道協会	理事長	尾崎勝	調査部長	松明淳
全国簡易水道協議会	会 長	井口一郎	事務局長	若松五常
日本下水道協会	会 長	小村和年	常務理事	石川清
日本ダム協会	会 長	宮本洋一	専務理事	横塚尚志
利根川・荒川水源地域対策基金	理事長	志水茂明	事務局長	志賀文夫
	理 事	藤井友竝		
日本水フォーラム	代表理事	竹村公太郎	代表理事	竹村公太郎
土木学会	会 長	小野武彦	専務理事	大西博文
農業農村工学会	会 長	塩沢昌	専務理事	小前隆美
水資源機構	理事長	甲村謙友	総務部長	岩下啓希
	理 事	◎大野雄一	特命審議役	阿部広志

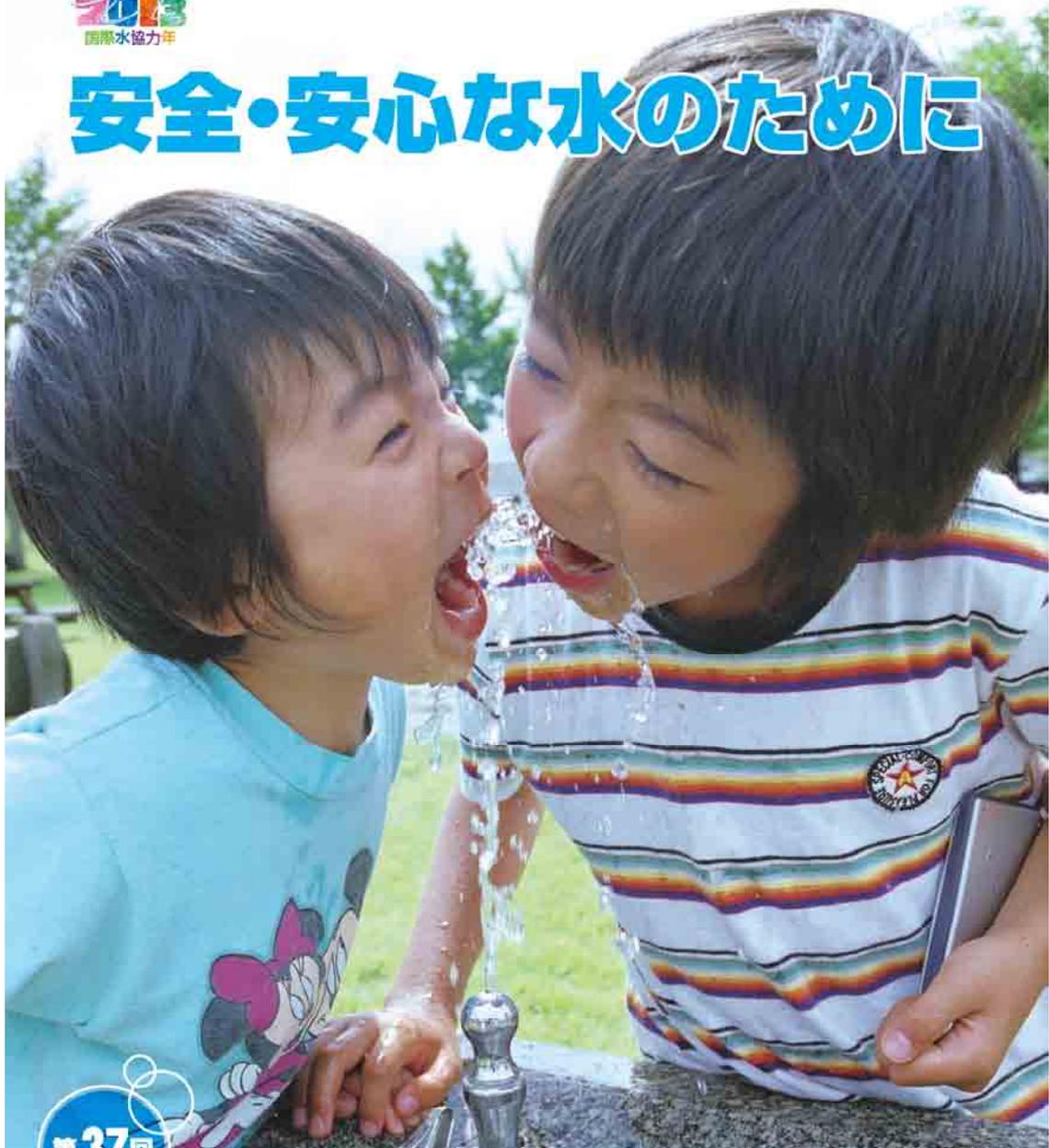
団 体 名	実行委員	運 営 委 員	
国土交通省（水資源部）	—	大臣官房審議官 水資源政策課長 水資源計画課長 水資源政策企画官 専門調査官	○秋本佳則 寺田文彦 海野修司 児玉克敏 茂田剛
東京都（都市整備局）	—	局 長 都市づくり政策部長 都市づくり政策部 水資源・建設副産物担当課長	藤井寛行 永島恵子 小口新吾

◎運営委員長 ○運営副委員長

## 第37回「水の週間」ポスター



# 安全・安心な水のために



第37回

8月1日は 8月1日～7日は  
「水の日」「水の週間」

水は限りある貴重な資源です。

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間

検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会

### 水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1-2

独立行政法人 水資源機構 広報課内

TEL 048-600-6513